

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670105313
法人名	社会福祉法人 吉田向陽会
事業所名	グループホーム むれが岡 風車の宿
訪問調査日	平成 20年 5月 26日
評価確定日	平成 20年 6月 19日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670105313
法人名	社会福祉法人 吉田向陽会
事業所名	グループホーム むれが岡 風車の宿
所在地	鹿児島市牟礼岡1丁目3番7号 (電話) 099-294-7007
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成 20年 5月 26日

【情報提供票より】(平成20年5月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	13 人	常勤	4人, 非常勤 9人, 常勤換算 5.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	(有) (100,000円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 250 円
	夕食	650 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(5月13日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	72 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	牟礼岡クリニック 曾山歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市北部の団地の一角に、母体法人が運営する保育園に併設して建てられたホームである。居室のベランダから直接、保育園の庭に出て自由に散歩したり、園児が訪ねて来てふれあう機会も多く、入居者は生き生きとした表情で暮らしている。地域には顔馴染みの方が多く、近所に住むご家族や親戚と共に頻りにホームに来訪される。また、災害対策にも保育園と一体となって取り組んでおり、非常時には地域が一丸となって対応できるように、日常的に働きかけが行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価における改善課題であった「注意の必要な物品の保管管理」について、管理者及び職員で話し合い、はさみや包丁、医薬品など、入居者の目の届かない場所に保管したり、必要に応じて、施錠できる棚に保管するなど改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者や職員が評価を振り返りの機会としてとらえ、前向きに全員で取り組んでいる。外部評価で指摘された課題についても、スタッフ会議で話し合い改善に向けた取り組みを実施している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議には、ご家族、地区公民館長、民生委員、地域包括支援センター職員に加え、協力医療機関の院長も参加している。会議では、入居者のホームでの様子、評価への取り組み等に関する報告や話し合いを行っている。参加者からは医学的見地からのアドバイスや地域行事の案内等があり、サービス向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 入居に関する確認書やホーム玄関の掲示板に、第三者委員を明示している。また、入居者のご家族が頻りに来訪されるため、お互いに意見を言いやすい関係が築かれている。運営推進会議においても、地域行事への参加等、色々な意見が出されホームの運営に活かされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 併設する保育園の子供たちと日常的にふれあうほか、コミュニティセンターで行われる催し物や小学校の運動会に出かけたり、近所の方がホームを訪れるなど地元の人々との交流を盛んに行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域とのふれあいを目指した、ホーム独自の理念・方針をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時に理念教育を実施すると共に、日々のケアについても常に理念に基づいているか確認している。また、毎月のスタッフ会議においても具体的な例を挙げ、皆で話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	併設する保育園の子供たちと日常的にふれあうほか、コミュニティセンターで行われる催し物や小学校の運動会に出かけたり、近所の方がホームを訪れるなど地元の人々との交流を盛んに行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員が評価を振り返りの機会としてとらえ、前向きに全員で取り組んでいる。外部評価で指摘された課題についても、スタッフ会議で話し合い改善に向けた取り組みを実施している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、ご家族、地区公民館長、民生委員、地域包括支援センター職員に加え、協力医療機関の院長も参加している。会議では、入居者のホームでの様子、評価への取り組み等に関する報告や話し合いを行っている。参加者からは医学的見地からのアドバイスや地域行事の案内等があり、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所支所の担当部署を訪れて相談したり、介護相談員を受け入れるなど、連携を図りながらサービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	請求書と共に、入居者個々の近況を一言添えた「風車だより」や健康チェック表、金銭管理の写しを毎月送付している。また、ご家族が利用料の支払いに来訪された際に、日ごろの様子や職員の異動等について直接報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居に関する確認書やホーム玄関の掲示板に、第三者委員を明示している。また、入居者のご家族が頻繁に来訪されるため、お互いに意見を言いやすい関係が築かれている。運営推進会議においても、地域行事への参加等、色々な意見が出されホームの運営に活かされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を必要最小限に抑える努力をすると共に、やむを得ず代わる場合は引継ぎの時間を十分にとり、入居者へのダメージを防ぐように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、2ヶ月に1回テーマを決めてスタッフ会議の後研修を実施している。また、外部研修や地域の介護保険施設の連絡会で開催する勉強会に参加しており、ホームにおいて伝達講習も実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護保険施設の職員等で連絡会を組織し、情報交換や勉強会を実施するなど、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームの見学や体験入居を実施し、職員や他の入居者に馴染んでもらった上で、徐々に入居へ移行するように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	魚のさばき方や料理方法を教えていただいたりして、入居者を介護される一方の立場に置かず、人生の先輩として尊敬する心情で接している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々入居者と接する中、それぞれの思いや希望、意向を聞き取り把握している。また、ご家族が来訪された際にも、入居者から何か話された事が無いか確認している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ会議で最近の入居者の状況について報告を受け、本人及びご家族の思いは担当者会議で確認しており、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間(3ヶ月・6ヶ月)に応じて見直しを行っている。また、毎日の職員ミーティングにおいて、入居者に変化は無いか常に確認し、期間終了前であっても必要に応じて見直しを実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	保育園に併設しており、日常的に子供たちとの交流を行っている。また保育園や子育て支援施設を中心に、園児の保護者や地域の人々との交流も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族の希望するかかりつけ医による定期健診や居宅療養管理指導、訪問診療など、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	一部のご家族とは、重度化した場合や終末期のあり方について話し合っているが、ホームとしての方針は今のところ確定していない。	○	重度化した場合や終末期のあり方についての方針を統一し、できるだけ早い段階から本人やご家族をはじめかかりつけ医等と繰り返し話し合い、関係者全員で方針を共有することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「パーソン・センタード・ケア」の考え方にに基づき、誇りやプライバシーを傷つけない言葉かけや対応に努めている。また、入居に関する確認書の中で、個人情報の取扱いや利用目的の範囲等について説明を行い、適切に取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、それぞれの希望にそって支援しているが、気力が無く寝ていることが多い入居者に対しては、なるべく起きて歩いていただくよう声かけするなど、状況に応じて適宜対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	山菜や季節の野菜などのいただき物が多く、入居者に料理方法や調理の仕方を教えていただきながら、一緒に準備や食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ひとりでゆっくり入浴を楽しんでいただくために、入居者が浴槽に浸かれた際、職員は安全性を考慮した上で浴室を出て、脱衣所から見守るなどの配慮をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	併設の保育園を十分に活用し、日々園児たちやその保護者とのふれあいにより喜びを感じながら過ごしている。また、入居者それぞれにできること(洗濯物たたみ、調理の下ごしらえ、掃除機かけ、鶉の世話など)をやっていただくことで、張り合いのある日々を送れるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	全居室が保育園の園庭に接し、それぞれのベランダから自由に外に出ることができる。また、職員が同行して散歩に出かけることも多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を学んでおり、日中は原則として鍵をかけることは無い。但し、外来受診付き添いで職員数が少ないときに、入居者が不穏状態になった場合には、安全面に配慮してやむを得ず施錠することもあるが、なるべく一緒に寄り添い見守りを行うことで、鍵をかけない努力をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム単独の避難訓練を年2回(昼間・夜間想定)実施している。さらに、併設する保育園の防災体制にも組み込まれている。近隣に住む職員をはじめ、地域の人々の協力が得られるよう日ごろから働きかけを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設する保育園の食育を担当する調理師とホームの調理師により、栄養バランスに配慮した献立が作成されている。食事量や水分摂取量の確保に関しては、健康チェック表により適切に支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには古いアルバムが置かれており、昔を懐かしむ入居者の姿も見られる。庭には季節の草花が植えられ、鳥小屋には鶉が飼われている。窓から見上げる山には風力発電の風車が並んでおり、雄大な眺めを楽しむことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やテレビを持ち込んだり、趣味の折り紙を飾るなど、本人やご家族と相談しながら、居心地よく過ごせる居室となるように支援している。		